



大久保裕介選手 (ES 関東 C)  
【3年連続3回目】



…今年はなかなか振るわなくて「今年代表は無理かな」と思っていたが、今日の選考会はずっと点数を取れた。昨年のチェコの成績が悪かったので、今回は表彰台に上がりたいと思っています。

田代雅之選手 (静岡県)  
【初】



…「やっと日本代表になれました。もちろん、目標は世界チャンピオンです。金メダルの獲得を目指してこれからも努力して参ります。是非、吉報をお待ちください！」

木村治雄選手 (入間市 OLC)  
【2年ぶり2回目】



…前は初の代表で、世界の中での自分のレベルもよくわからなかったのだが、2度目の今回は田代さんと同様1位だけを狙っていききたいと思っています。

## 日本代表の最後のきつぷは 大久保裕介選手が獲得。今年 の代表メンバーにメダル獲得の期待がかかる。

世界トレイルO選手権日本代表選手選考会を兼ねている全日本トレイルO選手権大会が平成20年度は無開催となったため、それに代わる選考会が4月19日、岡崎市「道根往還」を舞台に実施された。

今回の選考会は岡崎市オリエンテーリング協会が毎年開催している岡崎市大会に併催して行われた。

代表選考クラスには24名がエントリーし、平成19年度の日本チャンピオンである山口尚宏コースプランナーの組んだ合計22のコントロールに挑んだ。

この結果、大久保裕介選手が19点18秒の記録で第1位となり、8月にハンガリーで開催される世界選手権の日本代表に決定した。代表の3名には、同日櫻内JOAトレイルO委員会委員長より認定証が授与された。

山口尚宏コースプランナー  
(OLCルーバー)



…今回のコースは、「量的」には距離が2km、コントロール数20個+タイム・コントロール2個、さらに制限時間もMaxの150分という世界選手権で組まれる標準な内容で「長時間にわたる集中力の持続力」を試すものです。また「質的」には地形的な課題を多く設定し、特に普段の公園トレイルでのトレイルOではあまり組まれない急斜面やヤブの中の課題を設け、「より考える時間を長くさせる」ことに主眼を置きました。

なお、パラリンピック・クラスには木島英登選手、軽森亜希選手、高柳宣幸選手が選ばれており、来る5月17日の滝山丘陵トレイルO大会会場にて認定証が授与される予定。その他のメンバー構成は下記の通り。

監督 杉本光正  
チーム・マネージャー 藤島由宇  
アシスタント・チーム・マネージャー 小山太郎  
補欠 中尾吉男、伴毅  
スタッフ 鈴木規弘

(藤島由宇)